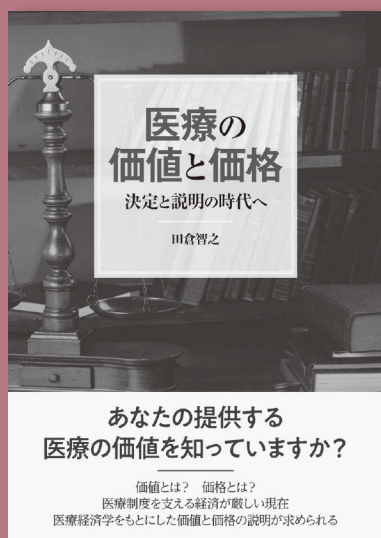


書評

医療の価値と価格

決定と説明の時代へ



あなたの提供する
医療の価値を知っていますか？

価値とは？ 価格とは？
医療制度を支える経済が厳しい現在
医療経済学をもとにした価値と価格の説明が求められる

- 著 田倉智之
- 定価 3850 円（本体 3500 円＋税）
- 判型 A 5
- 頁数 276
- 発行 医学書院

評者

聖路加国際大学看護学部 学部長／
大学院看護学研究科 教授

吉田俊子

医療経済学を体系的に学べる 1 冊

医療が社会に与える影響と役割

私が新人看護師として臨床に入ってから 35 年以上がたった。新人だった頃、コストについて話題にした記憶はなく、他職種との議論もほぼなかったと思う。学生時代に経済について学んだ記憶もほとんどない（講義にはあったのかもしれないが全く頭に残っていない。母校には怒られそうだが）。当時の私には、医療とコストという認識そのものが頭になかったといっても過言ではない。

そのような状況から、現在では医療と経済を考える日々に変化していることは、皆様のご想像の通りである。

医療者は質の高いケアを提供することが使命であり、いつの時代にも共通する目標である。しかしながら、現在の医療制度の中で、医療者はケアのコストはもとより、生産性を上げることや効率の課題を抱え、矛盾も多い中でケアを提供している。そして何よりもコロナ禍では、健康と社会の関係性を考えざるをえない課題に日々直面している。医療が社会に与える影響と役割を深く考える日々が続いている。

私たちの実践の価値と価格

本書は、序章の「なぜ医療経済学を学ぶのか」という本質からスタートする。なぜ、医療の価値と価格なのか、という起点である。そして医療、経済、社会とさまざまな視点から、段階を経て、医療経済学への理解を深めていく。

看護職は目の前の看護に全力である。目の前のケアにどのような価値があるのか、このケアには診療報酬を付けるべきではないか、見えないケアの価格をどのように決めるのか、という悩みも頭をよぎる。最近では、アドバンス・ケア・プ

ランニングの重要性から、意思決定や治療の課題を抱えながらも患者・家族との関係の中でケアを模索している。

このような私たちの実践に、組織、医療、社会全体としてどのような価値があるのか、どのように価格を設定していくのかについて、各章において鋭い切り口で著者は語りかける。

そして、引き込まれるのがコラムである。私は田倉先生と学会等の活動で一緒に過ごす機会を頂戴したが、「吉田さん、まさにそこだよ。私が思うに……」など雑談で話したことをコラムに発見する。例えば、p.72 のコラムのタイトルは「看護師の労働価値と給与水準を考える」である。上げて欲しさに決まっている。ではどのように考えていくべきか？

コラムでの課題の謎解きが、医学や経済理論や哲学など、医療を基軸としながらもさまざまな観点をういて、体系的にかつ分野を超えて自由闊達に各章で示されている。

*

医療における経済的な状況の改善は、今まさに我が国の最重要課題である。本書を通して、私自身、組織の管理者として、また医療に従事する看護職として、我が国の最重要課題に対していかに基本的なことを知らないか、体系的に学んでいないか、また学ぶ必要があるかを痛切に感じた。本書には、今とこれからの医療における時代の要請に応えるシーズが満載である。

本書を看護管理に携わっている方はもちろん、医療に携わる方、医療を目指す方にぜひ手に取っていただきたい。ピリッと効いたコラムを楽しみつつ、各章でじっくりと田倉先生と対話していただきたいと思う。